



崇仁すくすくセンター (挿し木プロジェクト)

2025年度 活動記録集



崇仁すくすくセンター (挿し木プロジェクト) 活動概要

2020年～2030年(予定)

3 挿し木をきっかけに、 新たなつながりをはぐくむ。

私たちが活動を続けるなかで、植物や作品を介した人々のつながりから、新たにさまざまな活動が生まれるようになりました。これらの展開にも伴走しながら、地域の新たなつながりを育てていきたいと思えます。

2 挿し木を想い、 作品をつくる。

かつて樹木と共にあった崇仁のまちの風景、挿し木が地面に戻った後のまちや人々の姿を想像しながら、挿し木に関連した作品(「大きな作品」シリーズ)を地域の方々と一緒に制作しています。挿し木としては育たなかった樹木も、様々な形で作品制作に生かすことで継承を試みています。

1 挿し木によって、 土地や人びとの記憶をつなぐ。

芸術大学の移転などの再開発によって大きく変化する崇仁地域にて、まちと共に命を育ててきた樹木を挿し木の形で継承することを試みています。挿し木は地域の方々とともに成長を見守り、土地や人びとの記憶を継承しながら、いずれしかるべき場所に植え戻していきます。すべての挿し木の地植えを目標に、2030年を目途に計画をたてて活動を進めています。

イラスト:カズマキカク

はじめに

崇仁すくすくセンター(挿し木プロジェクト)は2020年の活動開始から6年が経過し、プロジェクトの折り返しを迎えました。今年度は従来の活動に加えて、京都市立芸術大学および武田薬品 京都薬用植物園との連携事業や、崇仁地域の近隣施設での作品の共同制作が始まり、挿し木をきっかけにしたつながりが次々と展開していくと感じる1年となりました。

また、今年度はアジサイとヒメクチナシの2本の挿し木を地面に植え戻すことができました。地植え前の挿し木は残り10本。一本一本大切に見守り、再び地面に戻る過程を見届けたいと思えます。

大きな作品シリーズの第3弾「挿し穂の横断幕」の制作も継続しています。今年度は地域の有志「すくすくほがらか隊」、崇仁デイサービスうおいの利用者の方々だけでなく、近隣のデイサービスなどの福祉施設や薬局、京都市立芸大のキャンパス内などたくさんの場所で、さまざまな方々に制作に携わっていただきました。

崇仁すくすくセンターは土地の記憶や人々とのつながりを大切に、地域との関わりを軸に更なる展開を図っていきたく思います。今後とも私たちの活動をぜひ見守ってくだされば幸いです。

崇仁すくすくセンター(挿し木プロジェクト)とは

2019-2020年度HAPS主催による京都市「文化芸術による共生社会実現に向けた基盤づくり事業」のモデル事業の一環として、アーティストの山本麻紀子がスタートさせたプロジェクト。京都市立芸術大学および京都市立美術工芸高等学校の移転などの新たなまちづくりによって大きく変化する崇仁地域にて、まちと共にあった元崇仁小学校、元崇仁市営住宅、元崇仁保育所などで命を育ててきた樹木の挿し木を試み、地域住民と

ともにその成長を見守り、土地の記憶や人の繋がりを継承しながら、いずれしかるべき場所に木を地植えして返すことを目指しています。2021年度より、崇仁すくすくセンター実行委員会を立ち上げ、主に、崇仁デイサービスうおいと京都市下京・東部地域包括支援センターとの関わりを軸に、様々な方との作品づくりも行っています。すべての挿し木の地植えを目標に、2030年を目途に計画をたてて活動を進めています。

現在の挿し木一覧

番号	元々生育していた場所	樹木名	採取した年月日	地植えした年月日	地植えした場所
1	崇仁市営住宅	ムクゲ	2020.4.28		
2	崇仁市営住宅	アジサイ①	2020.4.28	2023.6.23	うるおい館(南西角花壇)
3	崇仁市営住宅	アジサイ②	2020.4.28	2025.1.18	渉成園(枳殻邸)
4	崇仁市営住宅	アジサイ③	2020.4.28		
5	崇仁市営住宅	アジサイ④	2020.4.28		
6	崇仁第三浴場の北	クチナシ	2020.4.30	2024.10.25	柳原銀行記念資料館(入口右手)
7	崇仁小学校	アジサイ①	2020.5.1	2024.10.1	京都市下京渉成小学校
8	崇仁小学校	アジサイ②	2020.5.1		
9	崇仁小学校	アジサイ③	2020.5.29	2026.1.27	京都市立美術工芸高等学校(中庭)
10	崇仁小学校	ナツミカン①	2020.6.25		
11	崇仁小学校	ナツミカン④	2020.6.25		
12	崇仁小学校	ナツミカン⑥	2020.6.25		
13	崇仁小学校	ヒメクチナシ④	2020.6.26	2026.1.27	京都市立美術工芸高等学校(中庭)
14	崇仁小学校	ヒメクチナシ⑩	2020.6.26		
15	崇仁保育所	バラ①	2020.7.22		
16	崇仁保育所	バラ②	2020.7.22	2024.5.24	柳原銀行記念資料館(東隣)
17	崇仁保育所	マサキ③	2020.7.28	2024.11.8	稚松保育園
18	崇仁保育所	マサキ④	2020.7.28		

※色付きの行はすでに地植え済みの植物です。

2020年に採取した776本のうち、上記の18本が命をつないでいます。それぞれの挿し木はどこに生きていて、どのような人の手に渡って地植えされたのか。一つ一つの経歴をアーカイブとしてホームページに公開しています。

sukusukucentre.myportfolio.com 記載のQRコードからもご覧いただけます。

※このWEBページは、令和5～7年度京都市立芸術大学 特別研究助成事業「SUJIN JOURNAL 2023」+ 芸術資源研究センターの協力で作成されました。



1. 挿し木によって、土地や人びとの記憶をつなぐ。

アジサイ③ (元崇仁小学校)

元々生育していた場所：元崇仁小学校 (2020年5月29日)
 地面に植え戻した場所：京都市立美術工芸高等学校・中庭 (2026年1月27日)



アジサイの親木
(2020年5月29日採取)



アジサイの挿し木
(2020年8月26日)



走井先生
(京都市伏見区)にお預け
(2025年4月28日～8月29日)



2025年7月14日：
アジサイ君ですが、高さが約70cm、幅が約80cmほどになりました。なので、今の鉢が小さくなってきたので、径30cmの鉢に植え替えました。元の土の周りに培養土に腐葉土を3割ほど加えた土を入れました。



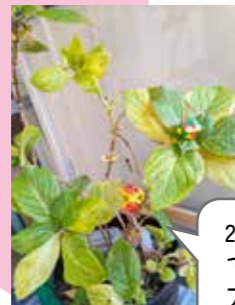
三上さん
(長岡京市)にお預け
(2025年9月2日～12月15日)



2025年11月10日：
寒くなってきましたね。アジサイ、元気になっています。大きな変化はありませんが、順調に育っています。



柳田さん
(京都市下京区)にお預け(2025年12月16日～2026年1月7日)



2026年1月1日：あけましておめでとうございます。アジサイも元気にお正月を迎えています。

ヒメクチナシ④ (元崇仁小学校)

元々生育していた場所：元崇仁小学校 (2020年4月28日)
 地面に植え戻した場所：京都市立美術工芸高等学校・中庭 (2026年1月27日)



ヒメクチナシの親木
(2020年6月26日採取)



ヒメクチナシの挿し木
(2020年6月27日)



渡邊さん
(滋賀県草津市)へお預け
(2024年8月25日～9月2日)



※バラ①(元崇仁小学校)と一緒に見守っていただく
 2024年9月2日：台風が近づいていたので、大雨の予報の日は玄関の中に避難させておきました。直射日光が当たらないよう、置く場所を工夫したりと、毎日観察しておりました。来た時と特に変わらず、元気な様子でした。



藤本さん
(京都市下京区)にお預け
(2026年1月7日～1月21日)



2026年1月21日：
朝はよく日が当たるからね。今週は月曜日に水やりしました。調子どんな感じかな？あ、いい感じ？それは良かった！

今年度は、元崇仁小学校の敷地内に生きていたアジサイとヒメクチナシを、京都市立美術工芸高等学校の園庭へ植え戻すことができました。園庭にあるイチョウの木は元崇仁小学校から引き継がれた木で、同和教育の父と言われている伊東茂光先生の着任15周年を記念して植えられました。校歌にも歌われていた大切なイチョウのそばで地域の歴史を新たに見守ってくれるようお願いしながら、地域の方々や高校の生徒たちとともに挿し木が地面に戻る姿を見届けました。



内山さん
(京都市東山区)にお預け
(2025年2月14日～2026年1月27日)



内山さんの不在中は、内山さんのお母さんに見守っていただきました。

挿し木の地植え会で使用する看板の彩色は、今年も崇仁児童館の子どもたちにご協力いただきました。



2025年4月21日：
母よりLINE。「姫クチナシは16×30cmです。こちらは関西万博で盛り上がっています。猫たちは仲よく過ごしています」とのこと。今日送られてきた写真を見ると、実家の北側から南側に引っ越ししたようです。



2025年6月12日：
帰国して、高槻に。ヒメクチナシさん、いろんな草花に囲まれて過ごしてたようです。陽当たりのある場所にみんなでギューギューにいるので、「風通しが悪いからなんとかしなきゃ」と母。でもひとりよりはギューギューの方が楽しそうかな。



2025年12月7日：
9月からヒメクチナシさんの隣が自転車置き場になりました。いつも遅刻しそうなので、自転車に乗るときに、会釈するだけの近ごろです。秋に剪定したあと、お日様の差し込む方向が時間帯によって変わるせいか、三方に枝がびーんと伸びてきました。葉はここ1,2週間の冷え込みで、縮こまってきたような。最高気温が10度を下回る日もあります。1月の地植え会の日程がもう少しで決まりそうだと聞きました。長い付き合いになると思っていたけど、アッという間にお別れが迫ってきて焦ります。残りの一緒の時間、どんな気持ちでいようかな。



2026年1月27日：
地植え会当日の様子
(京都市立美術工芸高等学校)



2. 挿し木を想い、作品をつくる。

昨年度から大きな作品シリーズの第3弾「挿し穂の横断幕」の制作を継続しています。今年度は崇仁地域や近隣地域の複数の場所に作品をお預けし、さまざまな方々に制作に携わっていただきました。現在は「未来に残したい言葉」や、制作時にみなさんから出た思い出の言葉を集め、横断幕に刺繍していく工程を進めています。完成は2026年夏頃になる予定です。

近隣施設での巡回制作

作品を崇仁地域近隣の福祉施設や診療所に1週間ほどお預けし、利用者の方に制作にご協力いただきました。

協力：内浜診療所通所リハビリテーション/下京老人デイサービスセンター/修徳老人デイサービスセンター/崇仁ふれあい教室/下京区地域介護予防推進センター(下京老人福祉センター/松井薬局で開催)



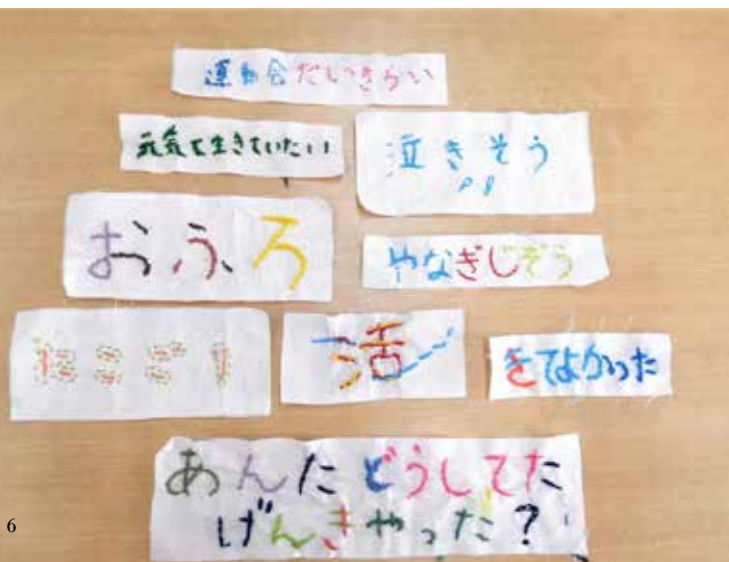
京都市立美術工芸高等学校園芸部とのワークショップ

横断幕上部につけるロープを通すパーツについては、京都市立美術工芸高等学校園芸部の生徒さんたちにご協力いただき、藍の生葉染めにて染色を行いました。藍は崇仁デイサービスうるおいで育てたもので、当日は他にも生葉のたたき染めも実施しました。



未来に残したい言葉

制作に携わっていただいた方の感想や思い、過去の記憶など、作品とともに未来に残したい言葉を書き留め、刺繍にする作業を新たに開始しました。完成した刺繍は横断幕に貼り付けて作品の一部にする予定です。



京都市立芸大でのワークショップ

2025年11月に芸大内で小山田徹学長が手がける「Weekend Café」と合同で場を設け、「未来に残したい言葉」を集め刺繍する公開制作を行いました。

写真提供：京都市立芸術大学「SUJIN JOURNAL 2023 -」 + 芸術資源研究センター

崇仁デイサービスうるおいでの公開制作

2025年12月から、崇仁デイサービスうるおいの一角をお借りし、どなたでも参加可能な公開制作の場を月2回程度開催しています。運営は京都市立芸大の学生さんたちにご協力いただいています。



3. 挿し木をきっかけに、新たなつながりをはぐくむ。

今年度は京都市立芸術大学および武田薬品 京都薬用植物園との連携事業が新たに始まり、挿し木をきっかけにしたつながりが次々と展開していくことを感じる1年となりました。

デイサービスでの 植物染めワークショップ

崇仁デイサービスうるおいでは花壇で育てた藍を用いて、昨年度に引き続き京都市立芸大の卒業生である美馬さんに藍染めワークショップを行なっていただきました。崇仁すくすくセンターの活動から生まれたつながりが続いていることをうれしく思います。



第一回のみまわり会の開催期間中には、地域有志「すくすくほがらか隊」の作品展も開催しました。

挿し木のみまわり会 (7月・10月の2回開催)

武田薬品 京都薬用植物園と京都市立芸大 高瀬川保勝会との連携事業として、地植えした挿し木をめぐる「みまわり会」を今年度から開催しています。当日は武田薬品 京都薬用植物園さんのご協力のもと、挿し木の育成のアドバイスや薬効の観点からの解説をいただき、参加された方々が興味深そうに聞いておられた姿が印象的でした。

協力：武田薬品 京都薬用植物園、京芸高瀬川保勝会

イベントの開催・登壇

京都市立芸大 芸術資源研究センターの公開講座「芸術と人権」の企画「土地の語りに耳をすます」に委員長の山本麻紀子が登壇し、活動紹介と崇仁地域にも関係が深い一遍上人のリサーチについて報告しました。また、1月末には崇仁すくすくセンターと京都市下京・東部地域包括センターの共催にてシンポジウム「文化で繋がる地域共生社会」を開催。東京都足立区の大内病院で活動するアートコーディネーターの荒川真由子さんと共に活動事例を紹介するとともに、下京地域の医療・福祉従事者と交流を深めました。

「思い出すこと」「感じること」「思うこと」「描くこと」2025年度

活動当初から崇仁デイサービスうるおいのご利用者さんに、挿し木に触れながらお話しいただいた内容を記録する活動を続けています。この記録は今後も続けていき、地植えされる挿し木たちとともに大切に未来に残していきます。

日時：2025年11月6日(木)
[元崇仁小学校(2020.5.1採取)のアジサイ②・元崇仁保育所(2020.7.22採取)のバラ①とともに]
場所：崇仁デイサービスうるおいフロア・玄関あたり
お名前：澤村 美智子さん 年齢/年代：86歳

へー。これ、小学校にあったアジサイなんか？こっちは保育所のバラか？こんな形してるんか。私もアジサイとボケを育てた。家を引っ越さなあかんようになって放ってきてもたけどな。そやなあ、アジサイはほったらかしても良く育つしな。前の家にあったアジサイな、今年も咲いてたわ。きれいに咲いてた。え？そうや、9棟に住んでた。もう引っ越してだいぶん経つけど、まだ花とかは残ってて、今年もそらきれいに咲いてたんや。

私の行った保育所は、河原町通りを塩小路河原町を南にさがったとこにあった。今は芸大になってるところや。分かるか？そこに通ってた。それで、そこを卒園して、崇仁小学校に入った。

家は、保育所のあたりの高瀬川のふちにあったんや。でも、その家には防空壕が無いから、崇仁小学校の裏門(須原通沿いにある門)の前あたりにあった、おばあさんの家の離れに住んでた。え？その頃か？もうその辺は2階建ての家ばかりやったしな、防空壕のある家はほとんど無かったと思うわ。

昭和20年、終戦の年の4月に入学式やった。まだ戦時中やった。それで、その年の8月に終戦になった。ランドセルもあらへんし、防空頭巾被って、非常袋さげて、マスクして、服に大きく名前と住所と年齢を書いて、そなん全部お母さんが作ってくれてな、そういうのを着て学校に行ってた。体操の時間に使う、はちまきもお母さんが作ってくれて、そこにも大きい字で名前書いてあったわ。そら、靴下も無かったし、足は冷たいから家で藁ぞうり作ってもらって、それを上履きにしてた。今でいう上履きなんか売ってへんし、買えへんし、お母さんが、靴づれしないように鼻緒のところを赤い布でくるんでつくってくれたわ。え？私は、藁ぞうりは作ったことないわ。でもお姉さんは作ってたなあ。

当時はな、電話も右側のハンドルをくるくる回して(発電させる

ため)、交換局に連絡して、電話したい相手の番号を伝えて繋いでもらってやつやって、「何番の何番お願いします」とか言うたはるところ、よう聞いたり見てたわ。

小学校入ってもな、勉強なんてもんはしてへんかった。入ってすぐの頃は、戦時中やから、先生なんかもな、いつ敵が来るか分からへんして言って、えいー！えいー！ってな、竹を持って敵をやっつける稽古をさせられてた。泣いてたらあかん！かかって行け！って。そやなあ、1年生やから7歳とか8歳の頃やわ。その時分は、小学校に高等科もあってな、運動場も2つあったんや。プールがあった辺で、高等科の人らが畑を作って、そこで育てた野菜を給食で出してもらってた。え？どんなんかってか？味噌汁の中に芋のつるが入ってたり、いい時はお芋が入ってたり。あとは、メリケン粉の団子が入ってることもあった。終戦後は、だんだん給食も変わってきて、ミルクの粉が出てきたりしてた。学校ではな、倒れる子が多かった。ごはんを食べられる子が少なかったからな。

小学校ではヤギも飼ってた。大きなイチョウの木があって、その後ろに職員室があってな、その横でヤギを飼ってた。ヤギのうんこやらの掃除をようさせられてたわ。その近くに小さい池もあった。そこに鯉がいたなあ。

そうそう、朝に裏門から小学校に入ったら、そのイチョウに挨拶しなあかんかった。イチョウの木の前でな、「今日も一日お願いします」って言うて、帰る時も、イチョウの木の前に行って、「今日もありがとうございました」ってな。なんで挨拶しなあかんのやろって思いながらな。ははは。

え？そうや、伊東茂光先生のこと知ってるか？そうか～！知ってるか！私が崇仁小学校に入った時の校長先生は伊東茂光校長先生や。背が小さくて、ひげを生やして、よう袴をはいたはった。「このイチョウの木のように元気ではよ大きくなりなさいよ」って、そればかり言ってはったわ。毎日きちっと朝礼の挨拶をしたはった。そうそう、その朝礼の時に、よう子どもらが倒れるねん。おなかすいてるしね。どこも兄弟が多かった時代やし、食べ物もなかったしな。

1クラスか？そうやあ、45人か50人くらいいたけど、学校に来ない子も多かった。家の手伝いとかがはったりな。迎えに

行ったら、「手伝いしてるし行けへんねん」とか言う子が多かった。私はな、小学校に行っ、泥なぶりとかして遊んでたなあ。

先生は前沢先生。女の先生やった。そうやなあ、その当時、どこでも男の人は戦争に行ってたから、女の先生も多かったで。男言うたら、校長先生と教頭先生ぐらいとちがったかな。用務員さんも女の人やった。その時分は、用務員さんのことを、「こづかいさん」って呼んで、「こづかいさーん、ヤギがないでー。おなか減ってるんちゃうかー」とか言うたりしてたわ。先生みんな、きびきびしたはった。

私はなあ、そのおばあさんの家の離れで10人くらいで住んでた。私は兄弟5人、お父さんは戦争に行っていなかったけど、お母さん、おばあさんいたし、あと、お父さんの兄弟さんも帰ってきてはって、みんなで離れに住んでた。家は大きい。空いたところでネギを育てたりしてた。この近所は旅館をしてみるところが多かったんや。

兄弟5人とも崇仁小学校に行った。その時分はどこもそうやけどな、兄弟が多いから、おろし(お古)ばっかり着せられてたなあ。

このな、デイサービスがあるところは、前は正覚寺(しょうがくじ)っていうお寺やった。よく行ってたで。保育園やらから帰ってくると、お寺で遊ばしてくれたはってん。私らの時代はな。こどもたちはみんな一斉に表で遊んでたなあ。車も通らへんしな。自転車は走ってたな。

盆踊りか? そうやなあ、昔はいっぱいやってたなあ。お地藏さんのあるところで盆踊りやってたなあ。大抵どこにでもお地藏さんがあったから、お地藏さんの前で将棋したり、寝たりしてたなあ。雨降ったら飛び起きて中に入ったりな。あちこちでやるもんやから、私はお地藏さんのあるところに行っは、お供えされているお菓子をもらいに行ってたわ。みんな踊ったはったで。え? そうや。盆踊りは毎年8/23の地藏盆の時にやってた。お盆は8/16やろ? その日は盆踊りはしいひん。

私らの時代は、一番損やなと思うわ。服1枚着るにしても全部に大きく名前と住所と年齢書いてな、いつどこで死んでもこのだれか分かるようにしてたからなあ。

ラジオをお母さんがよう聞いてたし、それでラジオから、どこどこに原子爆弾が落ちたとか、そういう説明があった。次はB29が飛んできたとか。日本は負けたらあかん! ってな。とにかくアメリカ軍は、日本の軍事工場がある名古屋とか大阪とかを全滅させていったから、次は京都や、京都やって騒がれてた。アメリカはお寺とかが好きやから、京都を最後に攻めてくるやろうとか言われてた。もうそんなんやっし、小学校行っても勉強どころやなかった。

家の手伝いもようさせられてた。今日は風呂を沸かす日やったら、はき古した下駄のかかとのところがべちゃんこになったのとかあるやろ? そういう、もう履けへんようになった下駄を割ってバラバラにしたやつを燃やしたりとかな、そういうことやってた。あんな時代な、ごもく(ゴミ)なんか無かったわ、全部燃やしてた。お風呂やご飯を炊くのに使ってたな。お風呂は五右衛門風呂や。今日はうちが風呂焚いたし、次は隣の家、とかそうやってやってたで。柴が十分にないしやな。入れ替わりでやってた。そうやな、苦しかったけど助け合いで暮らしてた。風呂わかしたし、みんな入りやーとか言ってな。あとからになって、振り返ってみたら、「年頃の娘とおじさんがよう一緒に風呂に入ったもんやなあ」とか笑い話もするわ。隣近所はとにかく仲がよかったな。

(聞きとり：山本麻紀子・松井菊恵 / 記入者：山本麻紀子)

日時：2025年11月20日(木)
[元崇仁保育所(2020.7.22採取)のバラ①とともに]
場所：崇仁デイサービスうるおいフロア・玄関あたり
お名前：津村 悦子さん 年齢 / 年代：77歳

えー……。何? これ? バラか? へー、私、植物怖いねん。枯らしてしまうしな。怖い。怖い。

ももとは、八条河原町の角あたりな、あそこに2階建ての家がずらーっと並んでた。長屋や。そこに住んでた。もう倒れそうな家や。つっぱりで支えたりしてな。その長屋を立ち退きになってからは、裏側に団地ができたから、その団地に住んでた。昔のよりみち(お好み焼き屋)とか、美容室とか、かわしろ商店とかがあった団地な。知ってるか? そうか。それから、また近くの新しい団地に引っ越して、そこにもう22～23年は住んでるなあ。もうあの辺一帯、変わりましたね。魚屋さんとか八百屋さんもあったんやけどなあ。昔は、とにかく食べもん屋さんもお店もいっぱいあった。今は立ち退きになって、新しい団地に住んでも、隣の人が誰かわからへんし、会話がないわな。

あっち(南)のほうに最近できたところ、何て言うところやったかな。4階建てらしいなあ。あ! そう、それ! チームラボ。外人さんいっぱいやでー。チケットが4000円もかかるらしいな。でもなあ、外人さんいっばいで、すぐそばのかたばん屋さんにも行列ができてるらしいわ。すごいなあ。あっこは古いで。炭で焼いてるしおいしいしなあ。かちこちのと、やわらかいのは三角に折ってあるやつで、どれも優しい味でおいしい。親子孫の3代続いて、今はお孫さんがやってるとちがうかな。昔は、もう一個、かたばん焼いてはるところが闇市の辺(現在の河原町七条西あたり)にあったんやけど、辞めはったな。最近は、私の団地の真ん前の団地な、もうすぐつぶされるとこ

ろな、前の糸ちゃんがあったところや。あそこで、若いお兄さんがコーヒーのお店出したりしてるで。ずっとやるんとちがって、一定期間だけやりますって言ってはったわ。最近は、いろんな人が来てどんどん地域が変わっていつてるなあ。団地から毎日いろいろ見る。

このデイサービスがあるところは、もともとお寺やった。正覚寺さんな。この辺も、「いちもんがしら」(駄菓子屋さんのこと)とか郵便局とか文房具屋さんとかあったなあ。須原通とか塩小路通りとかに、小さい旅館がいっぱいあったで。仕事が無いから色んなところから流れ者の人たちが来てはった。

このデイサービスも、ここにできてから15年以上経ったんちゃうかな。最初の年に、私のお母さんがここにお世話になった。その時はまだ利用者が2人しかいいひんかったで。

私らが住んでるのは崇仁でも南のほうやろ? そやから、風呂はだいたい第二浴場に行ってた。当時は安かったで。第二浴場な、今ちょうど建物つぶしたはるなあ。寂しいわ、ほんまにな。芸大が来て、新しい団地には全部お風呂がついてるから、もう浴場はいらないやろということな。それでもなあ、家の風呂と外の浴場とは違うやんか。やっぱりな、浴場で会って、元氣かーとか、あの人見いひんけどどうしてるんやろかとか、そういう近所づきあいができひんようになったのはほんまに寂しいわ。会話がなあ。無くなったわなあ。特に、このデイサービスで一緒に年配の方なんかは、やっぱりまたお風呂ができてほしいって言うてはるわ。今は、五条のほうにしかないしなあ。あ、梅湯って言うんか? 第二浴場が休みの時は、他の第一浴場とか第三浴場に行ってたで。他にも時々一般の銭湯にも行ってたな。でもやっぱりな、市営の浴場のほうが安いしな。

私は崇仁校に行っ、そのあと皆山中学に行きました。小学校の思い出か? やっぱり、運動会やなあ。運動場でな、みんな弁当持ってきてな。楽しかったわ。え? 中庭のあたりに動物か? そんなんいたかなあ... 私な、動物嫌いやねん。植物も怖いしな笑

皆山中学校では、私の年代は子どもの数が多かったみたいで、屋上にハウスみたいなのを2つ建てて、そこを教室として使ってたなあ。それで皆山中学校を卒業してから、デパート、大丸とか、お肉屋さんとか、色んな仕事をしてましたわ。一時期、山科の団地を借りてたんやけど、結局、崇仁の団地に戻ってきた。戻ってきたら同級生とかがいるし、やっぱり馴染みも深いし嬉しかった。

遊びか? そうやなあ、両親に連れてもらって映画館に行ってたなあ。あそこや、その塩小路の川を渡って本町のところ。今はデイサービスになってしまってるけど、昔はあそこが映画館やった。近所のたばこ屋さんで割引チケットみたいなんをもらえた。近くにな、おいしい洋食屋さんあって、そこでみんなでご飯

を食べて、映画見に連れてもらってた。え? どんな映画かってか? そら、チャンバラ映画やな。あとは美空ひばり、江利チエミ、雪村いづみの三人娘のやつやな。

あとはなあ、全部の家にテレビがあるわけじゃないしな、テレビのある家の人が、窓を開けてくれて、友達とその家の外からそのテレビを見てた。そら、家の人が見てるテレビの番組しか見れへんかったけどな。で、時間になったら、窓をぴしゃっと閉められて。まあ家に帰りなさいということやと思うんやけど、そうやって遊んでた。その他は、道端とかで自由に遊んでたわ。食べ物もその頃は安かったなあ。今はえらい高くなったわなあ。

モダン焼きちゅうのか? まあ、お好み焼きやな。お好み焼き屋さんで、もんじゃ焼きもあったんやで。普通のお好み焼きも出したはったけど、もんじゃ焼きもあった。一軒だけやったはった。あとな、別の店やけど、ちよぼ焼きを出す店はいくつかあったかな。穴がくりぬかれた鉄の板にな、水でといた粉、たくあんとかこんにゃくを細かく切ったやついれて、あと天かすと。醤油を垂らして、一味かけてな。炭で焼いて。その店は、そうめんの冷たいのんとか、あったかいのんとかも出してた。家にはちよぼ焼きが焼ける道具があったから、団地のベランダでよう焼いて食べてたわ。あと、何て言うかなあ、おでんと違うんやけど、お湯でちくわとかこんにゃくとかをゆでて、それに味噌をつけて食べるのとかもあったなあ。あれは何て言うのかちょっと忘れてしまったけど...

昔は10人くらいで集まって同窓会とかしてたけど、最近は亡くなってしまった人もいるし、寂しい。でもね、お友達2～3人で集まってご飯を食べに行ってますわ。外に出る人も減ってきてな、つきあいはあってもなかなか出かけたたりできひんかったりな。

(聞きとり：山本麻紀子・松井菊恵 / 記入者：山本麻紀子)

日時：2025年11月24日(月・祝)
[元崇仁保育所(2020.7.22採取)のバラ①とともに]
場所：崇仁デイサービスうるおい・相談室
お名前：藤岡 光夫さん 年齢 / 年代：87歳

はあ～そうか。これがか? ふん。ふん。(バラを触りながら)

え? 家か? ももとは、小学生の頃とかは、郷之町に住んでた。平屋やった。今はそこは、立ち退きになってもう長い間空き地のままのところや。そのあと、八条河原町の8階建ての団地あるやろ? 河原町通りをずっと南に行っ、高架下くぐったあとの交差点のところな。あっこに住んで、それから、去年やったかな、すぐ近くの団地に引っ越した。東之町。須原通りを南へ行って、高架下通り抜けて集会所あるやろ? その辺を右へ曲

がったあたりや。そうや、近所で2回引っ越してる。

1年から6年まで崇仁小学校に行ってた。そうや、郷之町に住んでた頃。小学校の先生もな、近所に住んではった。珍しいやろ?和田先生っていう先生やった。今もまだ住んだはるかかは知らんけどな。和田先生は、厳しい言うたら厳しいけど、そんなこともなかったと思う。4年から6年まで和田先生に習ったわ。そんでなあ、5年と6年の時のマラソンの時、和田先生から、「マラソンと言えば藤岡や!」って言うてくれはってマラソンに出た。東山の山を一周して帰ってくるマラソンや。1時間以上はかかる。へーっ!て、そらマラソンやから距離は長いからね。僕は勉強はできひんけど、ええ記録で走るの、和田先生がよう知ってはって「藤岡にお願いするわ」と言うてくれはった。そうやなあ、短距離が得意な人もいたけど、そういう人はマラソンは合わへんやろうな。短距離のほうが得意な人のほうがいっぱいあったな。自分では長距離が得意とか思ってなんだ(思っていなかった)けどね。まあ、心臓が強いんやわ。僕が言うならばね。

僕な、20～30代の頃、京都の北のほうの植物園あるやろ?あそこを2周歩いてた。へ?ああ、行くのは地下鉄に乗ってや。地下鉄のどこやったかな、北山か?そこで降りて植物園を2周。まあまあ広いで、あそこ。もともと心臓が強いんやろうなあ。

仕事か?力仕事とはちゃうな。家でできる仕事をやってた。靴の職人や。履物。女の人の履物とかヒールの靴とか、男の人の革靴とかやな。職人でも、男の人の靴しかせえへん人もいたけどな、僕は男もも女ももやった。親も靴職人をやってた。そうやなあ、15才とか16才の時に、20代くらいの人のところに習いに行ってた。近所の人や。親も靴職人やったけれど、親に習うとお互いに甘えがでるから、他人に教えてもらった方がええと言われた。後輩もおって、一緒に近所の人ところに習いに行ったりもしてたなあ。まあ、小学校の頃から親が家でやってる様子を見て覚えたこともあるけどな。

中学は昼間に靴づくりを習いに行ってたし、昼間は学校に行けてなくて、夜間学校に行ってた。その時の担当の先生は西村先生やった。皆山中学な。夜間学校に来てた人は少なかったよ。昼間に学校行かへんくても、僕らなんかは靴をやって生きていくもんやって、先生も分かったはったから、何も怒られたこともなかった。別に何も言わはらへんかった。

靴の修理か?修理は、近所の人で僕が靴作ってるのを知ってる人だけにやってた。そうやなあ、毎日9時～夕方5時くらいまでしてたわ。職を手持ってたら、食い外れないって言われてたしな。昔は靴職人は、ようさんいはったよ。今はもう誰もやってへんやろ?

時々な、お金持ちの人の靴も作った。あの当方で3万円というたらえらい高い値やで。お金を持ってる人っていうのは、一般の人とは違う靴をはくんやな。何ちゅうんかな...そうそう、それ

や、“こだわり”があるんやろうな。

靴づくりのやり方は、まず足の採寸やな。それから足の型をとるんや。木型に型をとめて、実際の足のふくれてるところとか、そういうところを木型がふくれるようにはりつけて、形を作っていくわけ。右と左、両方ともやらなあかん。へ?作った靴を本人に渡すのかってか?それはない。作った靴は靴屋に渡す。だから買った人と会うことは無いんや。

その時分、そうやなあ、一足作って400円くらいもらえたんところがうかなあ。そら、高いのもあるけどな。まあ、一般の靴やったらそんなくらいやった。デザインでも、ここにこういう風な模様をいれてとか、そういう注文を言うてくる人もいたしな。女もんは、ちょっと高かったかな。450円とか500円とかやった。それでなあ、手のどこかに絶対にいつも豆ができるわけ。靴をつくる道具がぎょうさんあるからな。自分の靴でも自分でなおすし、修理でよそに出したことはないな。

そうや、家で作ってたで。畳一枚分をはずして板間にして、机を置いて。そこを作業台にしたもんや。ミシンはあらへん。道具はいっぱいあった。

こういう職業やってたからな、今でも、やっぱり人を見る時は、服装ちゅうか、足元な、靴を見るわけ。ええ靴はしてるなあとか、そういう風に見てしまう。僕は今こんな靴(高齢者用の動きやすい靴)はしてるけどな、こんなんと全然違う靴あるやんか。ええ靴はいたはったら、やっぱりちょっと一般の人とは違う人やな、とかな。お金持ちの人は、何かに張り込みはるんやね。“こだわり”が濃いわけやね。

まあな、僕なりの考えやけど、今になって言えることは、貧乏人でも自分で苦労したらなんとか生活はできるということがよく分かった。まあ、そのことが分かっただけでも心強いなと思う。息子には勉強しろ!とか言ったこともなくて、ほったらかしてしまたけどな、勉強もできて、いいところに就職もできて、苦労もそんなせずに大人になって、知らん間に子ども出来たりして。普段はほとんど会わへん。でも困った時は電話したら助けてくれるしな。そやけどな、もしかしたら、そういう苦労してへん者もな、悪い道に行ってしまうこともあるかもしれんって、そう思ってる。人間はいつどうなるか分からへんしな。だけどな、さっきも言ったように、貧乏人でも苦労して頑張ったら何とか生活ができるんやっていうことを知ってることが、僕は心強いと思ってるんや。

(聞きとり：山本麻紀子 / 記入者：山本麻紀子)

日時：2025年11月27日(水)
[元崇仁保育所(2020.7.28採取)のマサキ④とともに]
場所：崇仁デイサービスうるおいフロア・玄関あたり
お名前：勝本 久子 さん・中村 一美 さん
年齢 / 年代：78歳(お二人とも)

<小さい頃の遊びについて>

勝本さん 私ら、ここ(デイサービス)に来て出会ったなあ。こちらの人はみんな同じような家庭やったなあ。小さい頃の遊びって言うたら、女の子でもめんこをしたり、ビー玉で遊んだり、河原の石を拾ってきて割って、地面に線とか四角とかの図を書いて、足で石を蹴って枠の中に入れてりのゲームやな。他は、玉突きって言うて、大きな将棋台みたいな台に、4ヶ所穴があいていて、色分けしたやつを陣地に入れて遊ぶゲーム。私は男ばかり4兄弟やったし、男みtainな遊びな、めんことか石蹴りとかそういうのをようやってた。なわとびもやったなあ。まあ、ここは同和地区やからな。仕事もな、外で雇ってもらえへんかったし、結婚もそうや。外の人との結婚も難しいから親戚同士の結婚が多かった。私らの時代はやで。朝鮮の人への差別をする気持ちとかもなかった。そもそも私らが同和地区のものやからな。

ずっとこの地域にいたし、池の中の蛙ですわ。まあ、言葉づかいがきついかもしれんけど、そんなこともないやろ?大学の1年生なんか?そうかー。19才かー。

<崇仁の食べ物について>

勝本さん 食べもんは...やっぱり、ちょぼ焼きやなあ。コンロの中に炭を入れて、その上に専用の長方形の鉄板にたこやきくらいのサイズの穴の凹みがある、片手で持ち運びできるサイズの鉄板を置いて熱くするやろ?それから、メリケン粉はしゃぶしゃぶ(しゃばしゃば)なくらいにしたやつを流し込んで、そこに細かく切ったこんにゃくとかちくわを入れて、最後はおしょうゆをかけて食べてた。おいしいで〜!ああ、食べたいわ!うふふ。そんでもな、ちょぼ焼きは、フライパンでもできる。私もおとつい作ったわ!しゃぶしゃぶの粉(たこ焼きの粉よりももっとゆるいくらい)を用意して、こんにゃく、ちくわ、ねぎ、天かす。それらをほんまに小さく、こんくらい(5mm四方くらい)に切るんやで。まず、そのしゃぶしゃぶの粉をフライパンに敷いて、その上に細かく切った具を置いて、しばらくしたら表面が乾いてきますやんか。そしたらおしょうゆかけて、好きやったら一味とかをかけてな、くるくと端っこから丸めたらええしな。ホットプレートが一番いいと思うわ。ああ、おいしいで〜食べたいわ〜!!

中村さん ちょぼ焼きはな、お豆も入れてもいいしな。具は小さくしなあかんて。あとな、かつおもかけてもいいいで!

勝本さん 他は、そうやなあ。田楽かなあ、こんにゃくとちく

わやな。切って串に挿してお湯の中に入れとくねん。おもちを焼いていれてもいいし。食べる時に、お湯から取り出して、布巾でばっぱと拭いて、砂糖を混ぜた味噌をつけて食べる。おもちは、白みそのほうがおいしいよ。家で作れるもんやったら、こんくらいかなあ。

中村さん あん巻きもあるで。メリケン粉をお好み焼きみたいに敷いて、中に餡を入れて、それか、黒砂糖を細かく刻んでいれてもいいしな。それをくるくる巻いたらええ。これもおいしいで〜!

<生まれについて>

勝本さん 生まれは下之町。芸大が建ったあたり(河原町塩小路の南西あたり)の一軒家。20才の時に団地ができて、(市営住宅の)21棟に引っ越して、数年前に新しいとこに引っ越した。途中な、結婚をして旦那の実家がある六地蔵に行って、そこで姑さんと一緒に暮らしてた。で、姑さんがなくなったから、私の実家のほうに帰ってきた。やっぱり、ずっとこっちに帰ってきたかったで。六地蔵にいる頃も毎日こっちに来てた。食べもんを食べにやな。喫茶店とかね。喫茶店のママさんから編みもんを教えてもうたりね。2時間も3時間もおったわ...その喫茶店は今もう無いねんけどな。

中村さん 生まれは七条大橋を下がったあたり。お稲荷さん(松明殿稲荷神社)あるやろ?小さい頃は、あそこを南に下がったところに住んでた。そのあと、結婚する前くらいにもう少し南のほうに引っ越して、芸大が来るというので数年前にすぐこの団地に行った。結婚した時は、旦那の実家がある京都府の井手町にしばらく住んでた。

<今の1日の過ごし方>

勝本さん そうやなあ、今か?病気になるまでは、ほんまに家におらんかったな。ずっと喫茶店に行ったり、お昼はおうどん食べに行ったり。今でも行きたいけど、今は車いすの生活になってしまったしなあ。なかなか行けへんわ。

<元崇仁保育所のマサキに触れていただきながら>

勝本さん(両手で植木鉢に触れて) もっともっと伸びてやー。たのむでー。これはほんまにいいことです。すごいねえ。よくやってるね。いやー。すごいわ。こんなぐんぐん伸びてな。えらいわ。がんばってや。

中村さん 莖もこんな太くなってなあ。すごいなあ。またどっかに植えるんか?葉っぱが元気そうやんか。

(聞きとり：松井菊恵 / 記入者：山本麻紀子)

日時：2025年12月3日(水)

[元崇仁保育所(2020.7.28 採取)のマサキ④とともに]
場所：崇仁デイサービスうるおいフロア・玄関あたり
お名前：K.Nさん 年齢 / 年代：78歳

私は、もともとはな、鴨川沿いの七条大橋のところに稲荷さん(松明殿稲荷神社)があるやろ?あそこを南に下がったところに住んでた。塩小路通りにいくまでの途中の辺。長屋の狭い家やった。私とお母さんとお父さんの3人で住んでた。ねき(そば)に、亀屋旅館かな、そんな名前やったと思うけど、その隣のほうに住んでた。鴨川金属もあった。鉄を売ってたところ。あとは、津田さんっていう、もの拾いに行っって、鉄とか段ボールとかそういうのを買ってきたはったんちゃうかな。売ったはったんかな。そこらじゅう、生活が苦しい人がいたやんか。そんでなあ、映画によく出てくるような門あるやろ?夜になったら、その一帯の門を閉めてた。なんでかというとな、博打場もあったからな。

崇仁小学校に行っった。それから皆山中学や。中学行く頃は、鴨川沿いの家から引っ越して、このへん(デイサービス近辺)のアパート(団地)に住んでた。中学を卒業したら、松井色素(?)っって言うてな、クレヨンをつくったり、服を染める染料とかをつくってる会社で働いてた。場所は、正面通りをずっと東へ行ったら豊国さん(豊国神社)があるやろ?あの辺や。機械にクレオンをいれて、溶かしたりな、そういうところやった。え?会社はそんな大きいところではないわ。

それで、結婚してから、旦那の実家の井手町に引っ越した。お父さん(旦那)の身内のほうは井手町やったからな。息子ができてから別れたさかいに、またこっち(崇仁)に戻ってきたんや。戻ってきて、七条下がるのところに母さんのいる実家に住んでた。お母さんと息子と私や。で、その頃、屠殺場に働きに行っった。そやなかったらな、生活でけへんやんか。十条の辺にあってな、自転車で行っった。そこでの仕事か?吊るさはった肉をきれいに水で洗って、そのあとは親方に言われたようにするだけの仕事。そんでな、仕事が終わって家に帰ってから、その肉を切って串にさして七輪で焼いたりな、ゆがいたやつに土しょうがをすって、おしょうゆつけて、味の素ちょっといれて、味をつけて、袋にいれて売ったり、ゆがいたやつを薄く切っってバックに入れて売ったりしてた。須原通の角の辺でな、長いすみたいな木の台みたいなのにビニールをかけて、その上に七輪置いて焼いたり、ゆがいた肉を置いて売ってた。そうでもせな生活していけへんやんか。そうやな、地域の人が買ってくれたはった。

今はもう息子も大きくなっし、芸大が来るとかで、引っ越して、すぐそのアパートに住んでる。今はな、ここ(デイサービス)でほんまによくしてもらってる。息子が安土に住んで、「お母さ

んこっちにおいて」て言ってくれるんやけど、私は行かへん。嫌や。ここがええ。

ごめんな。これくらいやわ。もうええか?ごめんな。こんな話聞きたかったか?ええんか?聞いてくれてありがとうな。

それ(挿し木を指さして)、がんばってな。ありがとうな。

(聞きとり：山本麻紀子 / 記入者：山本麻紀子)

日時：2025年12月4日(木)

[元崇仁保育所(2020.7.28 採取)のマサキ④とともに]
場所：崇仁デイサービスうるおいフロア・玄関あたり
お名前：藤本 節子さん 年齢 / 年代：82歳

エピソード：

藤：わたしは小さい頃は輸血をして育ててもらったのでね。8人家族で、そのうち4人が男の子で初めての女の子やからと言うて、母の妹から血をもらって輸血をして大きくしてもらった。だから元々体調は悪いです。貧血気味もあって。

保育所で言うたらね、日比野先生だけは覚えてる。東山のほうにおいて、その先生の記憶だけはあります。小学校も朝、朝礼には立ったことがない。倒れますから。運動会も行かないし、6年の修学旅行も行っっていません。親は言わないですけど、私がそんな風だったのは、輸血をしていたのと、栄養がいき届いてなかったからやと思う。貧血ってええように言ってるけど、好き嫌いも多いし、輸血をしてもらったけど、立ったらふぁーっってなるのも栄養失調やったんやと思う。好き嫌いが多いうえに、まあそんなに食べてないのね。自分の小学校の頃はそんな感じです。

松：じゃあ普段は何をされていたんですか?

藤：お手玉とかあやとりとか。そういう手を動かすことをしていました。たまにゴム飛びやらで遊んだんですけど、そんなに長くは続かない。やっぱり体調が良くないし、体育の時間の45分も持たない。持って20分くらいかな。そやから休憩しながらやるってことで。中学に入っってからかな。悪いことも覚えて、遊ぶことも覚えて(笑)。それでも、家自体は貧しい家庭やから、中学の時、2つ上の兄と、お昼ご飯の時に一度家に帰っって食事をして、それからまた学校へ行くんですよ。弁当を持って行けないから。食事もおかずはないです。そやから梅干しと食べたりに、かつおとか卵とかと食べていました。

中学ぐらいからちょっと体調も良くなり、遊ぶことも覚えて(笑)。クラブもダンス部に入りました。ダンス部ってね、今の

あんなダンスじゃない。ラジオ体操みたいな体操でね。文化祭の時にちょっと踊ったりはしましたね。中学3年生くらいになったら、みんな高校に行く者と仕事に行く者とで別れるのでね。私は何も無いからどうしようかなという感じで、親も私が体が弱いから学校行っっても続かんやろうって。でも、洋裁学校に行ったらお金がかかる。貧しいのは分かってるから、個人の洋裁を教えてもらえる所へ行っったんです。個人の家庭科教室みたいな所。場所は正面通りのとこ。二重の洋服を作るとなったら、表と裏がぴたり合わない布がつっってしまっって、難しくてできませんけどね。親から、スカートを縫っってと言われて出来なくて怒られてましたね(笑)。習いだしてそのうちに同級生と遊んだりして、洋裁教室もそんなに行かなくなっって。だけど私、今は我流で何でもします。我流で服を一重やったら縫いますし、ミシンもかけます。麻紀子さんの植物の刺繍のミシンもかけさせてもうたりもしてるし、芸大の人と一緒にミシンをかけて遊んだりもしてます。

あのね、私が24歳の時、主人が脊髄分離症になっったんですよ。それは、男と同居してるっっていう風に思ったらあかんってこと。そのくらいの病気です。でも、子どもは1人できてたのでね。女の子が。まあ、なんやかんや理由もあって、おじいさんとおばあさんとおばあさんが主人を育ててきはったんですよ。私とは意見が合わないし、主人も私の言うことは聞かない。おじいさんとおばあさんのことが主やから。そやから、なんべんも私、家に帰っってます(笑)。父親に、「出たり入ったりするんやったら帰ってこい」っって言われました。でもそんなん言われているうちに、気持ちに区切りがついたのか結局戻らなくなりました。そうこうしてる矢先に、主人がアフリカへ出張に出たり、ナイジェリアに行ったりして。夫は、昔の電電公社に勤めていたんです。

松：電電公社って何ですか?

藤：今のNTT(笑)。まあ下請けやけどね。光ファイバーができた時代やっったから、海外へ行くことが多かった。主人が海外出張中に、育ててもらったおばあちゃんが亡くなりました。だから喪主無しで葬儀をしました。24歳の時に主人の具合が悪くなっって、生活が出来なくなっったので、お世話になっった先生に仕事の相談をしました。朝はパチンコ屋の景品台の仕事をして。子どもを背負っって。で、昼からは、旅館の掃除の仕事をして。で、午後の3時から、児童館の留守家庭児童っっていっって、共働きの子どもをみる仕事をさせてもらいました。3件掛け持ちで、ほんで、その上に主人のおじいさん、おばあさん、おばさんもみてたんでね。

松：すごいですね。

藤：すごいっって言うより、みんなそういう時代やっったと思うんです。私が辛抱できるっってことは、そうやっったんやと思う。常日頃、私は誰にでも言っってますけど、ここで生まれ、ここで育ち、

ここで児童館の仕事も40年務めさせてもらっって。だから、ここで恩返しをしたい気持ちがあっって、いろんな役を持たせてもらっって今動いてます。今はね、社会福祉協議会と、シルバーと。で、献血や府の会長もさせてもらっってます。あとは、民生とか共募とかは委員さんでずっとやらせてもらっって、もう年中やらせてもらっって。それは苦にはならないです。恩返しと、みんな昔からの人と一緒にやっるので別にしんどいっってことはない。人が好きなんですよ。私は。兄弟も多いけどね、人も好きな私は。だからこうしてられる。

松：じゃあお話とかも好きですか?

藤：お話はね、そんな上手に出来ない。ただ人が好きだけ。だけど高校生に私のお囃子の本を作っっていただいたり、今回も何か作っってくれはったみたいです。

松：お囃子について詳しく聞かせてください。

藤：お囃子はね、主人がやっった。生まれた所が鉾を持ってはったからね。下之町の。だから、主人はそこで小さい時分から鉾に関わっったのでね。鐘を鳴らして、太鼓を鳴らして、笛を鳴らす。でも34年間で途絶えてしまっったんですよ。それを復活させて、今またやっってるけれど、復活をさせるのに、祇園祭の鉾の所へ行っって、今まで習っってきたことが合ってるかどうかいうのを勉強しに行っって、笛の楽譜も書けないので、笛の穴で2番目3番目言うて押すあれをやっって。京都芸大の音楽の竹内先生やったら、そういうことは簡単にすっってできるけど、うちは素人やし全然分らないから。自分で覚えた分を、鐘は鐘、太鼓は太鼓、笛は笛としてテープに吹き込んで、なんべんもなんべんもやり直して復活させたんです。主人が亡くなっった後も、私が跡を継ぐような感じで手伝いをして、今は芸大の人がやっってくれてはるし、年齢的に80歳で引かせてもらっったんです。

松：大学の隣の高校の前に置いてある鉾がそうですか?

藤：そう。あれがそうです。でも、実際にお祭りで動くのは塩小路高倉の角のアパートの下にある鉾です。それも見れますよ。高校の横にある鉾は古いほうです。実際に昔使っっていた鉾は高校の横にある鉾やけど、今は塩小路高倉の角のアパートの下にある鉾を動かしてます。5月の第2日曜日の新日吉神社の日吉祭で動かしました。結構立派ですよ。音楽を鳴らしながら歩いています。

松：児童館で働かれてた時の話を詳しく聞かせてください。

藤：もうそれは大変大変(笑)。一番しんどかったのは、学校を出てなくて資格がなかったこと。最初は留守家庭児童を預かるっってことで働かせてもらっっていたんやけど、それが普通の学童保育っっていうことになっった。普通の学童保育になったら、

近辺の付き合いもあるし、職員の交流もあったんやけど、私は基本的なことができなかった。児童館の館長から、「藤本さんは話もできるし受け答えもできるから、とにかく勉強をなささい」と言われて、色々教えてもらいました。学校を出ていない人ばかりに向けての研修があって、その研修に2年間通いました。それは、1+1とかそういう勉強じゃなくて、世間一般のこととか、子どものことなど、仕事に関係のあることを学ばせてもらって。その研修を受けたら高卒資格がもらえるからってことで受けさせてもらいました。学校を出てないってことは、しんどいということがよく分かりました。ある程度のことはやらないと無理なんだなと思いました。

松：藤本さんの時代の高校っていうのはどういう感じだったんですか？

藤：ほとんどが公立でした。仕事に関するそろばんやら、勉強ばかりじゃなくて、社会に出て役立つことを学んで、みんな商業のような所に進んでいました。ほんまに大学行く人とかは普通科に進んでいました。せやけど、少ないです。大学まで行く人は。

児童館では、先生にたくさん教えてもらいましたよ。習字も手話も縦笛もピアノも。いつも行事をする時には三学区が集まるんですよ。東九条にある希望の家っていう所に。職員が催しをせなあかんのですよ。子どもだけじゃなくて。その時分に、縦笛を披露したり。ピアノは片手でいいよと言われて練習していました。発表会に出ました。先生には、習字も教えてもらいました。「上っていう字の書き順は真ん中の棒からで、みんな横の棒から書くから字が歪むんや」ということだけはよく覚えてます。手話も教えてもらいました。こんな風に児童館ではいろんなことを先生に教えてもらいました。それで、正直ちょっと賢くなった(笑)。

私、着付けの免許も持ってるんですよ。近所の方の着付けもさせてもらっています。自分の子どもに着せたくて学んで、和裁もちょっとだけ学びました。せやから、デイサービスで、みんなのコップ入れとか、お風呂で持ってくる袋とか縫ってあげてます。そんなのはなんぼでもできる。でも、合わせ(二重)の服を作れと言うわれたら出来ない(笑)。手先を動かすのは好きなんです。しじみの殻でぼんぼり作ったりして遊んでます。

64歳で主人が亡くなってから3年くらいはじっと沈んでたけれど。主人がいる時分は海外もよく行った。スイスも行ってきましたし、フランスも行ってきましたよ。コロナからはもう旅行に出ないけど、コロナ前までは1月に韓国行って、8月にはグアム、それが恒例で行ってました、ずっと。主人がいる頃はハワイに行ったり、シンガポールに行ったり、中国に行ったり、いろいろ行ってました。海外で一番いいなって思ったのはやっぱりスイスです。山で高山病にかかりましたけどね(笑)。トロッコ

みたいなやつで山の頂上に上がったらやっぱり酸素が薄くて。その一番頂上から手紙を出したかったんです。子どもに。記念やから。今でもその手紙は残ってます。いつもね、行った先でポストを見つけて手紙を出すんです。

よく人にも言うんですけど、結婚した当時は地獄でした。だからお金がない。嫁に行く時に持って行った着物やらはみんな質屋で売りました。時代的にそんなんやったと思うけど、まあ苦しい思いをしてきました。お金のない思いもしてるのでね。孫なんかは、そんなことは全然分らんやろうけどね。娘は知ってる。お金のない時代は、15円のチキンラーメンにご飯を入れてかさを膨らまして、親子三人で食べたりしたこともありましたね。

松：旦那さんとはどこで出会ったんですか。

藤：同級生。幼馴染(笑)。もう3歳時分からずっと同じでね。だからずーっと一緒にいるような感じ。自然にくっついてるっていうような感じ。親には反対されました。体も弱いし、主人のおじいさんやおばあさんのこともあるし。辛くて泣いて実家に帰ったら、「もう帰ってくるんか、そのまま嫁ぎ先にいるのかどっちなにせいで！」と言われて。でも、結局はその人(主人)しか知らないのですね。世の中の事は分からないし。仕事先も近くやから。地元やから。外へ出たことがないので分らんのかなと思う。外へ出ていろんな人の付き合いがあったらまた違ったかも(笑)。

今がね、私にしたら一番幸せです。ここ3、4年前くらいから。なんでって言ったら、デイに通ってきて、町内の人とのお付き合いもあるし、今そこの団地に住んでるんやけど、孫が上の階にいて、私が下の階にいる。本当は新しい団地に引っ越しすることができたんやけど、孫が住んでいる近くへ行きたかったのだから、そこの団地に行った。ひ孫が毎日、私の家に通ってくれるんでね。だから今が一番幸せ。

町内の人と毎年旅行に行ったりもしてるし、そういう楽しみもあるのですね。だから、泣いてた分を返してもらってるのかなと思って(笑)。泣いてる時は、よく東山七条の智積院の庭に座ってました。お墓で愚痴を言うてたら、娘から「お墓で愚痴言わんとって！」って言われたし、どこへ行ったらいいかなと思って。そんなことは近所の人にも喋れないし。だから150円払って、庭で2時間ほどぼーっとして帰って。そしたらずっとする。通ううちにお寺さんが話かけてきてくれて、具合はどうですかと言ってお茶をだしてくれはって。何かあった時はいつでも来てくださとか言うてもらってね。だからそのせいもあって、お寺参りが好きです。いろんな所のお寺に行きました。自分の足で。もう今は行けないけどね。

やっぱりいろんな人と関わっていくのが楽しいし、知らないことがいっぱいあるのでね。町内の事、こんなに何も知らなかった

んやな思うことがいっぱいある。こんだけ80年もここにいるのにね(笑)。

(記入者氏名：松井菊恵)

日時：2025年12月25日(木)
[元崇仁保育所(2020.7.28 採取)のマサキ④とともに]
場所：崇仁デイサービスうるおいフロア・玄関あたり
お名前：三吉 千鶴子さん 年齢 / 年代：88歳

エピソード：
私が生まれたのは下之町。で、そこが取り払いになって、上之町に引っ越した。そうやな、小学校は上之町から通ってたわ。小学校の頃か...、思い出せるかなあ...ちょっと待ってなあ...ああ！1年生の時の先生は、谷口はつ先生。それから5年～6年は、前田つね先生やった。どっちも女の先生や。前田先生は、羽織袴で授業したはったで。家にもよう遊びに行かせてもらった。先生の家は、その鴨川の橋(塩小路橋)を渡って師団街道をずっと歩いていったところやった。まあなあ、優しい面もあったけど、戦時中の先生やから厳しいところもあったな。そらな、黒板の前で一人でな、長刀を持って、白いはちまきをして、白足袋はいて、刀を振ったりをやらはんねん。で、それに合わせてうちら子どもが「エイエイオー！」言うてな。男メロみたいな人(男勝りな人)やったわ。ええ先生やった、どの先生も。せやけど、女の先生が多かったように思うなあ。ああ、マラソンか？したでー。よう走ったんやでー。あんな、師団街道をずっと歩いて、確か東山のほうやったと思うけどな、なんか田舎の一本道をずーっと走ってたのを覚えてるわ。え？あ、そうや、先生も一緒に走るんや。男も女も一緒に走るさかいな。そうやなあ、みんなおんなじペースではないしなあ、遅い子どもを男の先生が連れて学校に帰るみたいな、なんかそういう面倒見のいい先生がようけいてくれはった。

崇仁小学校のあとは、皆山中学に行ったな。覚えてる限りやけれど、中学では勉強をさぼって、よう屋上に行ってダンスをしてたわ。「ええ加減にしとけよー！三吉ー!!!」とか言われてたけど、なんというか、どうい気持ちやったかももう忘れてしまったけど、なんというか、先生のことをなめとったんやろうな。そういう感じやったんやと思うわ。吉岡先生という先生がいあって、うちらはその先生のことを「外米(がいまい)」って呼んでた。なんでかってか？その頃な、外国米がよう出回ってたんやんか。外国米って細長くて背が高いやろ？吉岡先生も背が高かったから、そう呼んでたんや。「外米来たし、屋上へ行けんわ!」とか言うてたなあ。なつかしいわあ。でもなあ、そんなに厳しいことなかってほんまに優しくかった。「鉛筆とか字を書くもんがないし学校行かへんわ」とか言ったら、先生が鉛筆をくれはったりな。小学校、中学校の頃はよかったなあ。楽しかったわ。

中学を卒業してからか...どうやったかな...何してたか...う～ん...そうや！中学を卒業して、明治製薬やったかなあ、そこに仕事に行った。でもな、朝早くから電車乗って行くのが辛くて辞めて、それから...どこやったかな...ちょっと待ってや...せやせや、京都駅の近くのバチンコ屋や！そこでちょっと働いて、それから京都駅の弁当屋さんに行ったなあ。駅弁屋さんの会社や。お昼は、そのお弁当屋さんで食べたいおかずを頂いて食べさせてもらった。その頃は終戦後やし、結局な、そういうところが一番良かったんやわ。いつもお腹すいてたしな。家でもな、米が無い時は、サツマイモをふかして、メリケン粉を練ったところに混ぜ込んだのを焼いて、おしょうゆをつけて食べたりしてたなあ。何でも食べてたなあ。結局な、育ち盛りやしな、とにかく何食べてもおいしかったんちゃうかなあ。そんな感じやったんやと思うわ、今から思うと。もうな、とにかく口の中に何かを入れたいなあ。うちのお母さん、いろいろなもん作ってくれたわ。ありがたいなあ。なつかしいわ。いろいろ思い出すわ。カルメラとかもな。きららの砂糖でつくるやつや。お玉みたいなフライパンにきららの砂糖をいれて焦がして、炭酸をいれたらぶくーっと膨れてくるねんか、それをばたっとお皿に入れてくれたなあ。おいしかったわ。ほんまに懐かしいわ。それとか、サツマイモのぜんざいもあったなあ。メリケン粉を練って平らにしたものをしゃもじに置いて、それをお箸を使ってシャッシャッと切り離して鍋に入れていくねんか。あとは、メリケン粉を練ってのぼしたところに、サツマイモを蒸してつくった餡を中にいれて、あんまんみたいなやつな。おいしかったわあ。

お母さんは滋賀県の田舎の人やってな、下之町に住んでた頃、高瀬川のふちに家があったから川のところで畑してた。トマト、じゃがいも、サツマイモ、なすび、きゅうり...。川のふちやし、何でもできたで。中でもトマトが一番おいしかった！片手では収まらんくらい大きなトマトやった。お風呂からあがったら、冷えた大きなトマトを食べてたなあ。あとなあ、どんなもんがあったかなあ...う～ん...ちょっと待ってや...思い出すしなあ！巻き寿司や！巻き寿司もようしてもらたわ。中身はな、かんぴょう、高野豆腐、ホウレンソウとか何やらがいっぱい入ってた。夏はきゅうりも入ってたなあ。

崇仁校の南の辺の高瀬川沿いに、昔は馬小屋があったんや。そこに四角い木の枠の窓があって、馬の顔だけがぴゅっと覗いてる時もあって。ピッカの会社(鉛色みたいな色の革を扱っていた会社)とかもあった。馬小屋の持ち主は上田さん。その横が、おきみさん。蒸したサツマイモとかりんごとか駄菓子屋ちゅうんかなあ、色んなもんを売ってはった。その横が、小川さんで、その隣が金沢さん。その横はうちの父親の実家で三吉さん。そして、山村さん(えみちゃん)。その隣が小林さん。それから魚屋さんで、その隣は韓国の人で洗い屋さん(クリーニング屋さん)やってはった。その人はもう朝鮮に帰らはったけどな。それで、育友会もしたはった近藤さん。この近藤さんは、「へっと」を炊いたはった。「へっと」と言うのは、牛を解体した時に出る

いらん脂身のところあるやろ?あれを切り出して集めて、何も入れんと炊くと、じゅくじゅくした脂になる。それを一斗缶に入れて冷たいところに置いておくと固まるやろ?ほんで、一斗缶を逆さにしたらつると四角い形になって出てきて、それを切ったもんが「へっと」や。ラードは豚やろ?その牛肉の脂の塊のことや。その炊いたあとに残るのが、あぶらかすな。ああ、なつかしいなあ。いろんな内臓を食べたわ。すき焼きにしたりな、残った汁でうどん炊いたり。内臓、おいしかったで!でもなあ、まあ言うても毎日食べるもんでもないわなあ。もう勘づいたかもしれんけど、そう、私は肉屋の娘です。そうそう。

うちのお父さんは、兵隊に行ってたしな、お母さんがうちらを食べさせなあかんって、一生懸命がんばってくれてたわ。今思うと、ほんまにありがたいことやなあ。ほんで、お父さんが、山陰線から続いていくところ、どこやったかな。亀岡ちゃう。園部もちゃう。う〜となあ、思い出せるかなあ.....舞鶴や!舞鶴か?東舞鶴か?どっちかや。そこにな、お母さんがうちらを連れてお父さんに面会に行く時には、そらすごい量の食べ物を持って行ってた。でもな、お父さんは、「自分はいらんから、子どもらに食べさせや」って言って、うちらが全部食べてしまった。そんなこともあって、お父さんは37歳か38歳で亡くなった。はよ死んでしもた...そうや、若いのにな...蚊にさされて頭がふわ〜となる病気や、病名何やったかなあ...思い出せへんなあ...あ!!!そうそう!それ!マラリヤや。マラリヤで亡くなった。気が狂ってしまった面も覚えるわ...大変やった...府立病院で亡くなった。お母さんは毎日行ってお父さんの面倒を見てた。うちらも一緒に行ってた。お父さんが亡くなって、それからお母さんの苦勞が始まるんや。もうなあ、1人で子どもらを育てなあかんやろ?とにかく、私と弟をおんぶしたりして、買い出しに行ってたなあ。

今か?今なあ...河原町八条の団地から引っ越して...今、現在は...うちはどこに住んでるんやったかな...現在はどこやろか...どこやったかな...どーんと向こうのほうに行ったところや。弟の息子と一緒に住んでる。その子がな、ほんまにようしてくれる。泣けてくるわ。今時、珍しいで。何でも聞いてくれるし、助けてくれるしな。ほんまにありがたいと思ってる。

河原町八条の団地に住んでた時は、そら辛いことがいっぱいあった。あそこで、妹も癌で亡くなり、お母さんも歳で亡くなって、弟も亡くなった。1年の間に3つ葬式を出したで。3人も一気に亡くなったんや。それでな、弟の子を、うちが責任もって大きく育てようと思ってたんや。幸い、大きな声で言えへんけどな、お金を残してもらってたしな、その子を学校に行かせることもできた。今は大きな車屋さんで立派に働いてるわ。え?ああ、そうやなあ、その子もな、うちに育ててくれてありがとうって思ってくれてるん違うかなあ。うちもそう思ってるわ。ほんまになあ。涙が出るわ。そうやな、お互いが大切に思って感謝し合って生きていけることはほんまに幸せなことやなあ。うちは、

幸せやわ。なあ。

<マサキに触れながら>

そやけど、この子、もの言わへんけど、色々分かってると思うわ。ほんで、また、すーっとまっすぐ育ってなあ、ほんまに素直な子やなあ。私みたいにな!誰も言うてくれへんし、自分で言うていくねんか。そんでも、つぼみがいっぱいできてるの、ほんまに楽しみやなあ。春まで待たなあかんわ。早く、顔見せてねー。もっともっと大きくなってねー。お花は、きつと、この葉っぱのぎざぎざの形とか深い緑の色とか、そんでこの艶に一致したようなお花なんやろなあ。絶対きれいやわなあ。あんた、ようここまで育ててくれたなあ。ありがとうなあ。私も、昔は友達からもろて、よう挿し木させてもらってた。この子ももっと大きくなったら、挿し木させてもらいたいわ。今はまだ枝の数が少ないしな、もっと大きくなったら挿し木させてちょうだいな。この子の株元のところに、こんなかわいいシダも生えてるやんか。ここに来たいわーって、ここにきてくれたんやろなあ。お友達にならあったんやなあ。ええなあ。

(聞きとり:山本麻紀子 / 記入者:山本麻紀子)

崇仁すくすくセンター実行委員会



委員長:山本麻紀子
(アーティスト)



副委員長:出口 むつみ
(社会福祉法人カトリック京都司教区カリタス会
総合福祉施設東九条のぞみの園 施設長)



委員:安部 良
(建築家/Architects Atelier Ryo Abe 代表
/東京藝術大学美術学部 准教授)



監事:四元 秀和
(京都市文化市民局文化市民総務課長)



事務局:山本 和則
(哲学者/余白製作所)



事務局:安部 知
(Architects Atelier Ryo Abe)



事務局:宮崎 彰子
(京都市下京・東部地域包括支援センター
センター長)



事務局:大森 晃子
(崇仁デイサービスうらおい 管理者)

活動へのご支援のお願い

崇仁すくすくセンター(挿し木プロジェクト)の取組を応援していただける個人の方を募集しています。地域の記憶や人々の思いを未来に繋ぐため、皆様のご寄付を賜りますよう心からお願い申し上げます。

金額:10,000円。複数口のご寄付も可能です。

寄付者の皆さんには、寄付金額に応じ年に1回の記録集の進呈、活動報告展や記録集・その他印刷物(チラシ等)にお名前の掲載等を予定しております。

ご寄付の申込方法

以下のメールアドレスまでご連絡ください。折り返し担当者より詳細についてご案内いたします。

contact@sukusukucentre.org 事務局(担当:安部)

2025年度は以下の皆様にご寄付を賜りました。(順不同)この場を借りて改めて御礼申し上げます。

石崎和男様/藤尾まさよ様/みよちゃん様/宮田和政様/TERA Energy株式会社 ほっと資産事業部様

崇仁すくすくセンター（挿し木プロジェクト）2025年度

協力：崇仁自治連合会 / 崇仁発信実行委員会 / 京都市崇仁児童館 / 内浜診療所通所リハビリテーション

下京老人デイサービスセンター / 修徳老人デイサービスセンター / 崇仁ふれあい教室 / 下京区地域介護予防推進センター

下京老人福祉センター / 松井薬局 / 京都市立芸術大学「SUJIN JOURNAL 2023」+ 芸術資源研究センター

京都市立美術工芸高等学校 園芸部 / 武田薬品 京都薬用植物園 / 京芸高瀬川保勝会 / すくすくほがらか隊

挿し木のみまもり隊 / 京都市下京いきいき市民活動センター（指定管理者：有限責任事業組合まちとしごと総合研究所）

東京藝術大学 共生社会をつくるアートコミュニケーション共創拠点

岡田真由美(アーティスト / 挿し木のみまもり隊・連絡補助、運営補助)

嶋谷恵太(京都市立芸術大学 美術学部 構想設計専攻2回生 / ワークショップ補助、挿し木の地植え会の撮影)

美馬摩耶(アーティスト / デイサービスでの藍染めワークショップ) / 西村寿(京都市立芸術大学 美術学部 版画専攻3回生
児童館との看板づくりワークショップ、デイサービスでのワークショップ)

前田美咲(京都市立芸術大学 大学院 彫刻専攻修士1回生 / 挿し木のみまわり会・映像撮影、デイサービスでのワークショップ)

増山周良(京都市立芸術大学 大学院 彫刻専攻修士1回生 / パラとクチナシの経歴ファイル巣箱制作)

松井菊恵(京都市立芸術大学 美術学部 彫刻専攻1回生 / デイサービスでのおはなしのききとり)

助成：令和7年度 キリン・地域のちから応援事業

京都府文化力チャレンジ補助事業

崇仁すくすくセンター（挿し木プロジェクト）2025年度活動記録集

発行：崇仁すくすくセンター実行委員会 デザイン：カズマキカク 印刷：株式会社プリントバック レトロ印刷 JAM

発行日：2026年2月

著作権法で定められた範囲を除き、無断での複製、複写、転載を禁じます。

※本プロジェクトは、2019-2020年度 HAPS 主催による京都市「文化芸術による共生社会実現に向けた基盤づくり事業」のモデル事業の一環としてスタートしました。

崇仁すくすくセンターウェブサイト <https://sukusukucentre.org>

ご意見・ご感想などは以下メールアドレスまでご連絡ください。 contact@sukusukucentre.org